

佳作

たくさんのありがとう

「トントントン！」今日もばあばがキッチンで料理を作ってくれています。

ほくは、ばあばの料理がとても大好きです。特に大好きなのは、オムライスです。どうして美味しいかというと、卵が新鮮で、とろっとふんわりとしていて、ケチャップソースがスパゲッティの残りのルーを工夫して、オムライスソースに変身させて食べるのが最高に美味しいのです。これだと毎日でも、オムライスが食べれそうです。

ほくの家は、両親が働いているため、ばあばが週に二回ほど、ほくの家に夕飯を作りに来てくれます。

ばあばは、ほくによく、

「ほんまに、よう和歌山に帰って来てくれたなあ」と、言います。

ほくは、お父さんの仕事の都合で、小さい頃は、ばあばの家から遠くはなれた場所に住んでいたため、ばあばに会う事が出来ませんでした。会えても年に一回程度。それが、ほくが三年生の時にお父さんが転勤になったため、ばあばのそばに居られるようになりました。

遠くにいる、会えない時でも、電話をくれて、体を気付かせてくれたり、みかんや桃や手作りの梅ジュースを送ってくれたりしました。いつも、ばあばは優しいのです。そんなばあば

和歌山県

和歌山市立貴志小学校 五年

松本 敦貴

の近くにこれた事は、ほくにとてもうれしいことです。

でも、いつも「ありがとう」と言うタイミングがなく、なかなか感謝の気持ちを伝えることが出来ません。

だから、ほくは毎年ばあばの誕生日にたくさんのありがとうを込めて、三年生の時は、画用紙に家族の写真の切り抜きをはり、メッセージをそえて上げました。四年生の時は、ばあばの似顔絵をはり絵で作り上げました。ほくがプレゼントした物は、きちんと額にかざられ、目に入る場所にかっこうよくかざられています。

いつもばあばは、目にたくさんの涙をためて、「あっちゃん、ありがとう、ほんまにありがとう。」と、とても喜んでくれます。

ほくが、本当は、ばあばにありがとうなのにと思いうけれど、喜んでくれてる顔を見ると、プレゼントして良かったなあと思う時です。

「ありがとう」は、心が温まり、気持ちのいい言葉だなあと思いました。

今年も八月十三日はばあばの誕生日、去年ばあばに上げた顔のはり絵の横に、たくさんのありがとうを込めたプレゼントをかざってもらいたいです。

ばあばいつも本当にありがとう。